

2月26日(水) 本年度第33回(通算2719回)

## 「IMに向けて Part 2」

担当/理事会

12時30分～釧路プリンスホテル

### ■メーキャップ

2月25日 北川 健二君(釧路東RC)

### ■出席報告【会員総数69名 免除7名 出席計算に用いた会員数69名】

出席者 38名 本日の出席率 55%

### ■ニコニコ献金

- ・IMに向けて頑張りましょう ～小野寺 英夫君、佐渡 正幸君
- ・本日のIM例会宜しく願います ～北川 健二君
- ・IM間近です。宜しく願います ～中嶋 嘉昭君
- ・IM頑張りましょう ～徳山 淳一君
- ・誕生日ケーキありがとうございました ～北山 幸徳君
- ・花束ありがとうございます ～大友 淳君

### ■会長挨拶 《小野寺会長》



みなさんこんにちは。今日も例会に出席頂きありがとうございます。少し暖かくなり始めて春に向かっていくようです。

1月17日に生まれた3人目の孫が1か月を過ぎ結構大きくなりましたので、日課の風呂に入れるのが私の役目となりました。今我が家には2歳半の子と二人おりますが、親の時は育てていく責任もありましたので必死だったと思いましたが、孫となりますと唯ひたすら可愛い訳で、今の時間を楽しんでおります。

そんな時ふと、世の中の子供がみんな幸せになれるといいなという思いに馳せます。ロータリアンとしてできることは何かと思います。

モンゴルのジャンチブ先生から、モンゴル米山学友会を設立することになり3月1日に設立総会と記念式典を開催するので来てくださいという案内をいただきました。モンゴルの米山奨学生の累計は約140名になり、皆さんの交流と活動の場として、又、モンゴル、日本両国のロータリーの交流の場としていきたいとのことでした。当日は釧路で北RCがホストとなりIMが開催されますので残念ながら出席できず遠く離れた釧路からお祝いいたしますとメッセージを送りました。ジャンチブ先生もロータリアンとして米山学友として頑張っております。私たちもロータリアンとして今できること、もちろんIMです、頑張っていきましょう。

### ■幹事報告 《佐渡幹事》



・2014～15年度のロータリー手帳の予約受付がきておりますので、受付票を回覧いたします。定価648円となっております。

・釧路北RACの3月例会案内を回覧いたします。

・3月のロータリーレートは、1ドル102円です。



中嶋IM実行委員長

IMまで、あと3日後に迫りました。  
この後、萩原IM幹事より詳しく説明がありますが、今日まで、北川ガバナー補佐はじめ実行委員会リーダーや部会長、副部会長を含めた役員、担当役員会員の皆様と打ち合わせを重ねて、IMに向かっていく形が整いました。多くの会員皆様の知恵やアイデア、提案をいただきました事に、感謝を申し上げます。  
今回のIMのテーマは、「歴史から先人の情熱を学ぼう、ロータリークラブの未来に向けて」であります。  
テーマや内容に触れながら、分区内各クラブの皆様に、全員登録のお礼と出席のお願いに伺いました。  
反応は例年通りなのでしょうが、何らかの期待をされている感じを受けて参りました。  
是非、記憶に残るIMで終わります事を願いながら、会員皆様のご協力を心よりお願い致します。宜しくお願いします。



3月1日に迫ったIMについて、各部会ごとに最終確認をしました。

## ○ポール・ハリスと仲間たち

ポール・ハリスは几帳面な性格で、最初のメンバーを構成するのに、適切だと思う3人を選んだと言われています。

初代会長になった石炭商のシルベスター・シールはインディアナ州出身で子どもの時から、かなり辛苦を味わいながら育ち、他人の幸福ということに大きな関心を示し、慈善事業では欠かせない人物でした。二人は隣り合わせの別荘を持ったり、両家族との交流も深く、ハリスは今、生涯の友であるシールの墓のそばで眠っています。

ガスター・バス・ローアはシールと対照的に感情の起伏が激しく、また寛大すぎるほど寛大でした。鉱山技師という職業が経済的にも不安定であり、ロータリーを道半ばにして不慮の死を遂げてしまいました。2月23日のロータリー最初の会合を行ったのが彼の事務所であった事実は、ロータリーの歴史に残っています。

ハイラム・ショーレー洋服商はやさしく、気持ちのよい社交的な人物でした。最初の記録係が彼でした。最初の4人のことをポール・ハリスは「そもそもロータリー会員として集合した最初のグループで、いわば、大群の前衛であった」という控えめな表現で記しています。第7回の会合は、郊外の彼の店で開くことになっていましたが、遠すぎるので、便利の良いホテルで行いました。それがその後の会合の形式となりました。

## ○戦後の日本のロータリークラブ、そして釧路北ロータリークラブ

1949年（昭和24年）3月、東京、大阪をはじめ7クラブが国際ロータリー復帰を認められました。現在、日本の会員数はアメリカにつき第2番目です。ロータリー財団への寄付額もトップレベルで大きな貢献を果たしています。

釧路北ロータリークラブ、1958年5月28日設立。釧路ロータリークラブのスポンサーによりチャーターメンバー23名で当時平均年齢39歳の日本一若いクラブでした。同年8月18日にRI加盟認証を受けて、その日が創立記念日となっています。

1958年5月・浜中ロータリークラブ、1970年6月・釧路西ロータリークラブ、1971年11月・釧路北ロータリークラブ、1997年5月・釧路ベイロータリークラブ、釧路西ロータリークラブ共同スポンサー、村井 力氏（特別代表）で新クラブを誕生させている。1961年～1962年に故両角 克治氏が350地区（当時の東北・北海道全域）ガバナーに就任。依頼、1996年に坂本 一がガバナーの誕生。2008年に足立 功一ガバナーの誕生しました。